

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立福渡小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒709-3112

岡山県岡山市北区建部町川口1302

E-mail fukuwataris@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~fukuwataris/

幼児児童生徒数 男子 25名 女子 28名 合計 53名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「福とであう虹学校」を活動テーマとして、ESDを課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことと捉え、ESDの実践を通して地域の課題が全世界、全社会に共通する問題として考え、課題解決に向けて行動しようとする力の育成を目標とした。

具体的には、「地域」を柱に、①地域に係わる活動、②環境に係わる学習、③福祉に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 地域に係わる活動

1～3年生は地域のよさを見つける活動を行った。1・2年生は地域の川で採取した生き物を飼い、生き物の特徴や様子などを調べたり観察したりする中で、生き物が生息するには豊かな自然環境が必要であることを実感し、自分たちの住んでいる地域が豊かな自然に囲まれていることに気付いたり、大切にしていこう気持ちをもったりすることができた。また3年生では、地域の方やお店の方にインタビューしたり、福渡学区に多い福祉施設に訪問したりすることで地域の方々の願いや思いに気付き、自分たちにできることは何かを考えることができた。

②環境に係わる学習

4年生では、環境守り隊を結成し、3つのテーマに分かれて実践した。「福渡の自然」では、身近な自然に目を向け、水質検査をしたり水の汚れの指標となる水生昆虫を調査したりしたことで、きれいな水を通して里山の自然が守られていることが分かった。「学区クリーン作戦」では、美しい町福渡にするため駅や公民館のそうじ、通学路のごみ拾い、ポスターを掲示板に貼る啓発活動を行い、ごみのないきれいな町にしようという心が芽生えた。「紙のリサイクル」では、全校に紙のリサイクルを呼びかけたり紙ではがきを作る活動をしたりして、紙はリサイクルすることで生き返ることを学んだ。これらの活動を通して地域の環境は人々の努力によって守られていることを知り、子どもたちも実践したことを生活の中で生かそうとする態度が見られた。

③福祉に係わる学習

5年生は、学区には高齢者が多いことを知り、「お年寄りの方々のために自分たちにできることは何か」という課題をもち、介護福祉施設を訪問して一緒に体操をしたり会話を楽しんだりした。また地域の高齢者の方へのインタビューを通して、高齢者の方々は仲間と会話をしたり、体を動かしたりして楽しく元気に毎日を過ごしていることを知った。また、おにぎりパーティを開き招待した。さらに、学区の敬老会に参加し、交流を深めた。活動を通して高齢者の方とはゆっくりはつきり話すことで、楽しく過ごせることに気づき、生活の中で実践している。

④国際交流に係わる学習

6年生では、まず自分たちの住む建部町や岡山市の良さを調べてまとめ、同じ建部町内の小学校とスカイプを使って交流したり、この時参観に来られていた岡山市長の話の聞いたりすることで、自分たちだけでは見つけられなかった建部や岡山市の魅力をもっと深く知ることができた。その後、岡山市の国際交流課の韓国・中国の方に来ていただき、それぞれの国の話を建部町と比較しながら聞くことで、違いに驚いたり共通点に共感したりしながら、相手の国の歴史や文化を尊重するとともに自国の文化を大切にしようとする態度を養うことができた。



① 地域の川探検



② クリーン作戦



③ おにぎりパーティ



④ 国際交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・水のいきものかいかたそだてかた
- ・昆虫のかいかたそだてかた
- ・日本の淡水性エビ・カニ
- ・川魚の飼育と採集を楽しむための本

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間・生活科を中心として、各学年で教科・領域と関連付けながら横断的な指導計画を立てている（ESDカレンダー）。また、児童自身から出てきた課題を中心に指導内容を考え、地域人材の活用、体験的な学習・実践、他の学校とのインターネットを使つての交流などを軸に指導を行っている。今後はアクティブラーニングの積極的な導入など指導方法の工夫改善に努めていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域人材活用マップを毎年作り、地域の人材を活用しての体験的な学習をやすくしている。また、ネットワークを使つての他校との交流を行うために職員間で研修を行い、1年間で交流が終わることなく、継続して交流ができるようにしている。さらに、採取した生き物を育てるために校内にビオトープを作る計画を立てている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童・保護者・教員に対しアンケートを行った。児童はふるさと福渡への興味関心が前年度より高くなっており、保護者・教職員とも児童の郷土愛が深まってきていると感じていることが分かった。これからも活動をホームページで発信したり、小学校で学習したことが中学校でも役立つように系統や内容を考えたりして、ユネスコスクールとして更に福渡から世界へ視野を広げる取り組みの工夫を考えていく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

岡山市のユネスコスクールの研修会で1年間の取り組みを、写真を交えて発表して、スカイプを使って他校と交流していることなどを知ってもらうことができた。また、生活科・総合的な学習の時間の発表会を全校で行い、1年間の実践を保護者や地域の方に向けて発表することで活動を報告することができたとともに、参加者全員で「福渡のよさ」を感じる場となった。さらにホームページで活動を報告することで、保護者や地域の方々に知ってもらうことができている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

福渡小学校シルバーの会の方々とは年間と通じて交流している。福祉ではいこうふらっと(介護福祉施設)と交流がある。福渡商店街やマルナカ建部店(スーパー)に見学に行ったりお店の方にインタビューをしたりしている。また建部町公民館やめだかの学校とも交流がある。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在、中学校区が同じである竹枝小学校との交流を行っている。インターネットを使って自己紹介をし合ったり、山の学校での活動について話し合ったりした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童は、以前より地域のとの関わりや地域の方との触れ合う時間が増え、郷土愛が高まった。教師も地域との関わりが増えたことにより地域理解が深まったと考える。また、保護者は地域の行事へ積極的に子どもと一緒に参加されるようになった。地域の方々は子どもたちへの声掛けが増え、「子どもたちから元気をもらった」という嬉しい声が聞かれた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

低学年では、地域の川で採取した生き物を飼い、生き物の特徴や様子などを調べたり観察したりする。また、生き物が生活する環境についても調べ、どのような場所で生活しているか、何を食べているか知ることで、豊かな自然環境が必要であることを実感し、福渡の自然を大切に守っていかうという気持ちを育む。

中学年では、学区の町を探検して地域の方やお店の方へのインタビューをしたり、町の様子や特徴などを調べたりして、地域の課題に気づき、自分たちにできることを考えたり、発信したりする。また、地域の環境を守るためにどうしたらよいかを考え、地域に発信していく。

高学年では、地域の福祉施設を尋ねたり、地域の高齢者にインタビューしたりして、地域の福祉に気づき、福祉に対する意識を高めていく。また、世界平和や国際理解など世界を取り巻く問題について学習し、自分たちにできることはないか考える。

全学年では、3学期に地域の方や保護者、協力してくださった方々を招き、1年間の活動を発表する。